

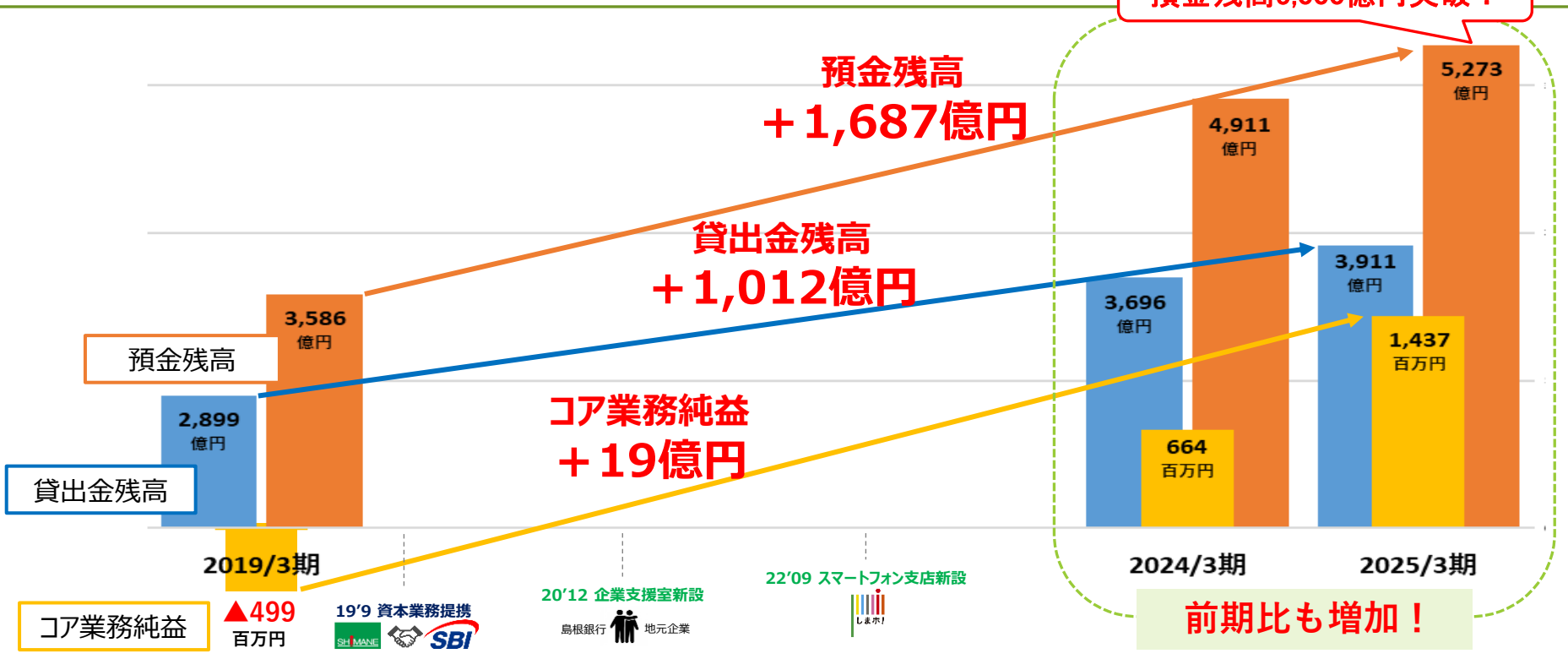
2024年度(2025年3月期) 決算トピックス

2025年5月13日(火)



1. 単体決算の総括

- 2025/3期の預金残高は5,273億円（前期比+362億円）、貸出金残高は3,911億円（同比+214億円）と順調に推移。それに伴い貸出金利
息や有価証券利息配当金が増加したことで、**コア業務純益は前期を大幅に上回る1,437百万円（同比+773百万円）**となった。また、SBI
グループとの資本業務提携前である2019/3期との比較では、**預金残高が+1,687億円、貸出金残高が+1,012億円、コア業務純益が+**
19億円と、**SBIグループとの連携施策の効果等により大幅に増加しており、強固な収益基盤を構築することが出来た。**
- 信用のバロメーターでもある預金残高は、SBIグループとの連携による様々な取組（本業支援、SBIマネープラザとの資産形成サポート、
吉本興業との連携等）が**地域で評価されたことに加え、スマートフォン支店『しまホ！』での預金獲得が順調に推移したこと**などを背景に
増加し、5,000億円を突破した。
- 貸出金残高についても、企業支援室を中心とした本業支援の取組効果等により大幅に増加。お客さまの「良き理解者・パートナー」とな
るべく、お客さまのもとに足繁く通う「Face to Face」を実践し、地元企業・地元経済を支えるための事業者支援に尽力。SBIグループをは
じめとした様々な分野・業態との連携・つながりによる多角的な支援を実施した。



夢への架け橋！ Open Innovation Bank SHIMAGIN

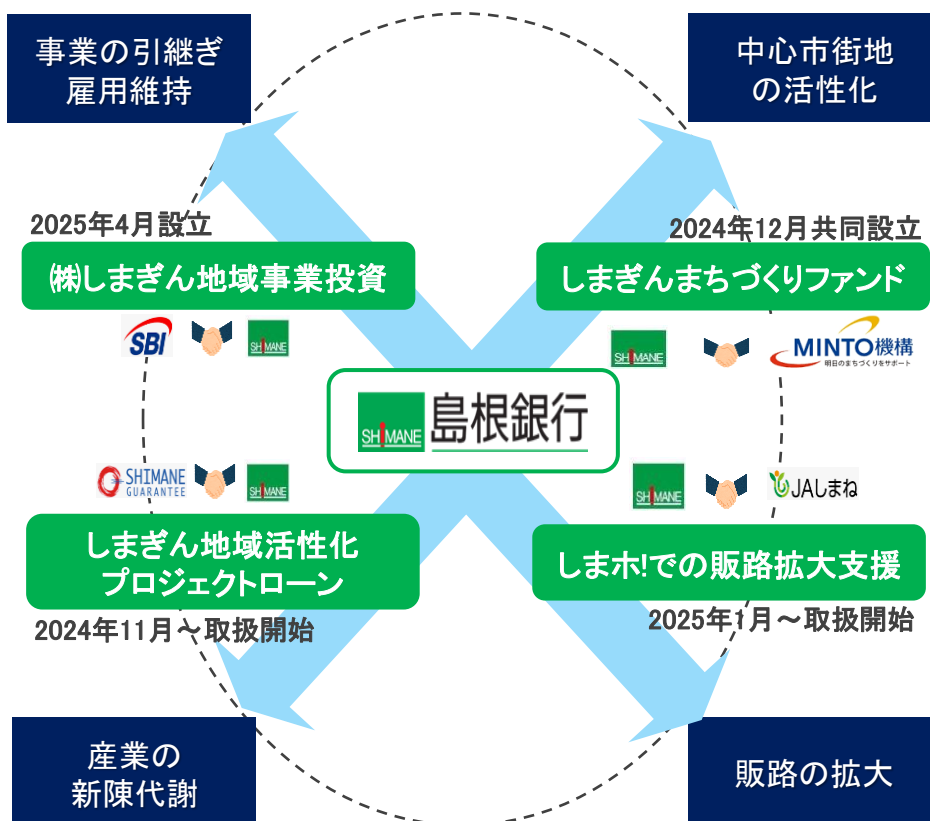
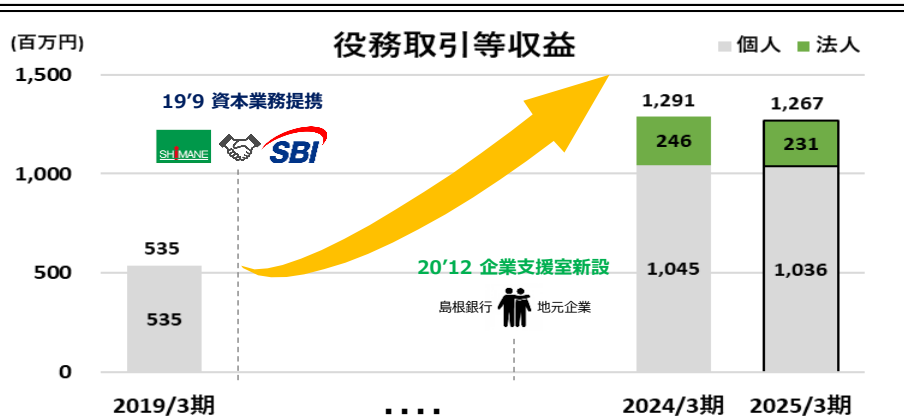
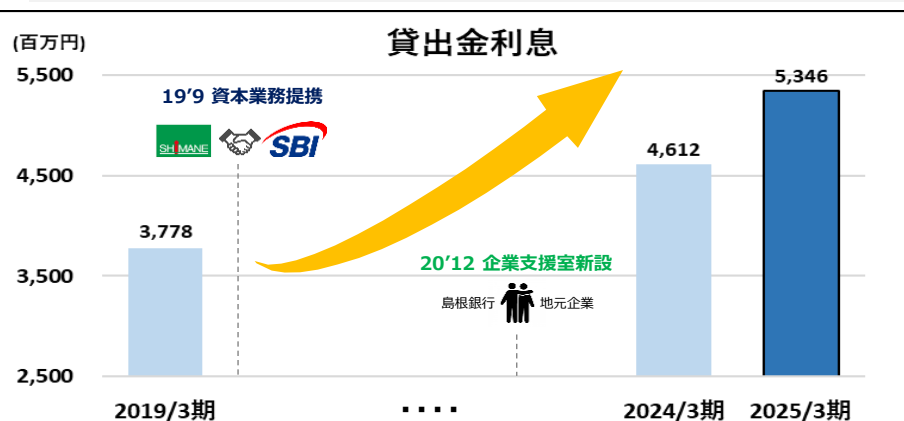
		2025年3月期 (数値目標)	2025年3月期 (実績)	達成率 又は差額	
収益性	コア業務純益	10億円	14.3億円	143%	達成！
	当期純利益	5億円	5.8億円	116%	達成！
健全性	自己資本比率	8%台	7.56%	▲0.44pt	

- 前中期経営計画の収益目標については、コア業務純益、当期純利益のいずれも達成となった。特にコア業務純益については、達成率143%と目標を大きく上回る着地となり、本業部分での収益力が大幅に向上した。
- 一方、自己資本比率は7.56%と、アセットサイズの拡大に伴いリスクアセットが増加したことを主因に低下し、目標未達となった。今後も地元企業向け融資に注力していく一方で、リスクアセット見合いでの収益率(RORA)が低い貸出等は抑制していくことなどにより、収益の拡大とリスクアセットの抑制をこれまで以上に適切にコントロールしていく。
- 当該中計期間では、コア事業である事業者支援・本業支援の取組定着と、全行的なトレーニングによる営業力の強化を図ることが出来たため、今後はこれらの「質」をさらに高めていくとともに、「金利ある世界」での調達と運用の高度化を図りながら、地域のニーズに応じた金融サービスそのものを充実させ、地方銀行として進化していく。

3. 本業部分の収益の状況

➤ 顧客中心主義に基づき、お客さまの課題解決にコミットした質の高い支援を実施！

- 2025/3期の貸出金利息は5,346百万円(前期比+734百万円)、役務取引等収益は1,267百万円(同比▲24百万円)となった。
- 金利上昇局面においてもあえて固定金利型の商品を新設するなど、顧客中心主義に基づき、将来の金利上昇に不安を感じる地元のお客さまに安心して資金調達をしていただけるよう、ストラクチャード・ファイナンス等の商品を一段と拡充したことなどが、貸出金利息や役務取引等収益の獲得に繋がった。
- また、中心市街地の活性化を目的とした共同ファンドの設立や、新たな事業に挑戦するお客さまの支援に特化したローン商品の新設、しまホ!での販路拡大支援等、当行初となる様々な取組の実施により、本業支援の「質」を向上させることができた。



4. 預金の状況

▶しまホ！の好調な推移に加え、好金利のキャンペーンの実施等により、預金残高が伸長！

- 2025/3期の預金残高は5,273億円となり、前期比362億円増加した。2025年2～3月にかけて、金利を大幅に引上げて実施した定期預金キャンペーンが大変好評だったことに加え、しまホ！での預金受入れが引き続き好調に推移した。
- 2025/3期のしまホ！の残高は642億円となり、前期比256億円増加した。「金利ある世界」となり、預金獲得競争が激化する中でも、全国トップクラスの普通預金金利を維持したことで安定的な預金獲得が図られ、残高は過去ピークを更新した。また、SNSなどの口コミも増加したことで、顧客数は26,000先超と前期から倍増した。

2025年2～3月に実施した定期預金キャンペーンの内容

しまぎん 2025 定期預金 キャンペーン

2025年 2月3日(月)～3月31日(月)

特別金利

しまぎん店頭でお申込みの方

年 **0.55%** (※1年) 1円

年 **0.70%** (※3年) 3円

年 **0.80%** (※5年) 5円

しまぎんアプリからお申込みの方

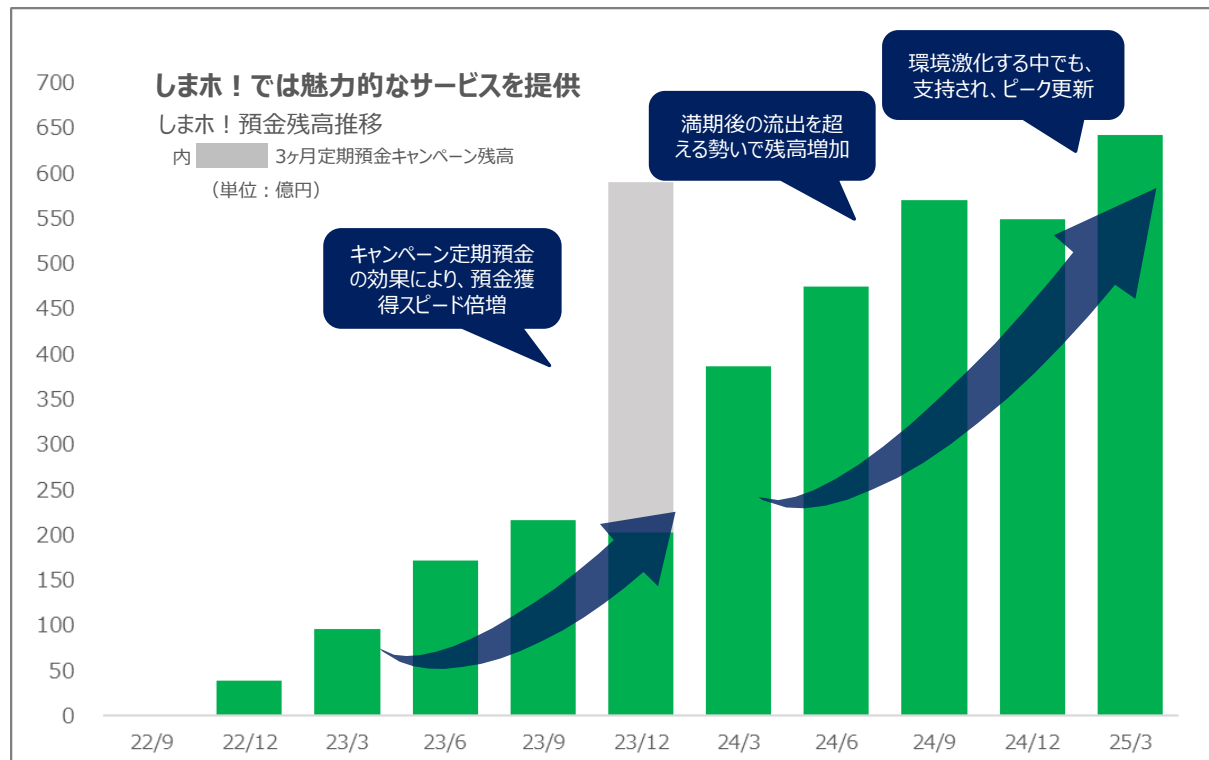
年 **0.55%** (※1年) 1円

※アプリから自動継続で申込みされた場合、満期日には、自動継続時における「ネットプラス」、「ネットプラス大」の金利を適用します。

しまぎんアプリ

詳しくはお近くの「しまぎん」の窓口にお問い合わせください。

島根銀行

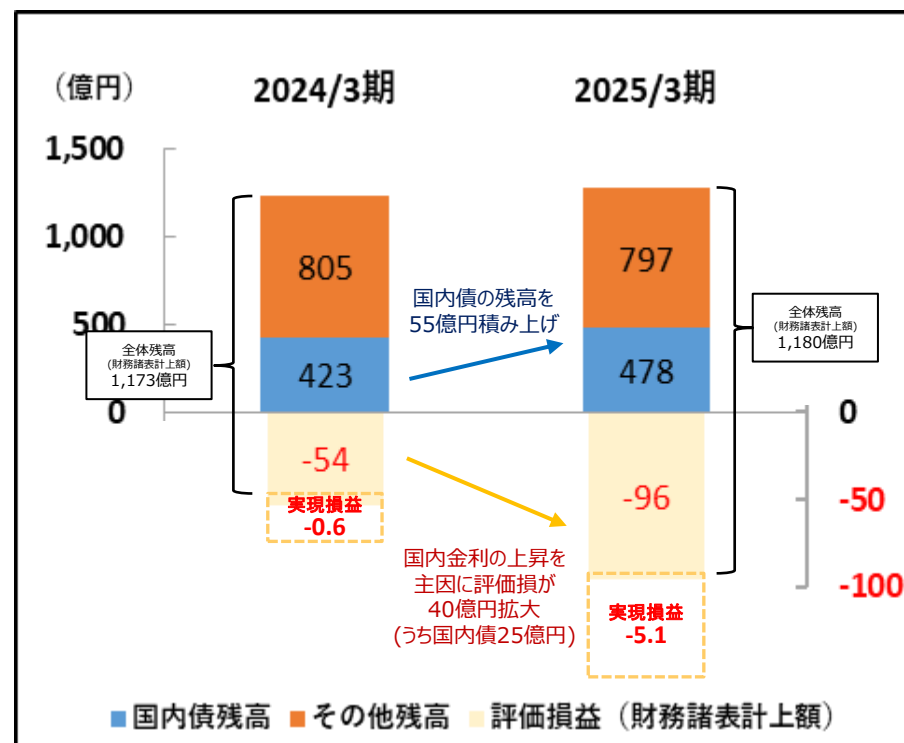
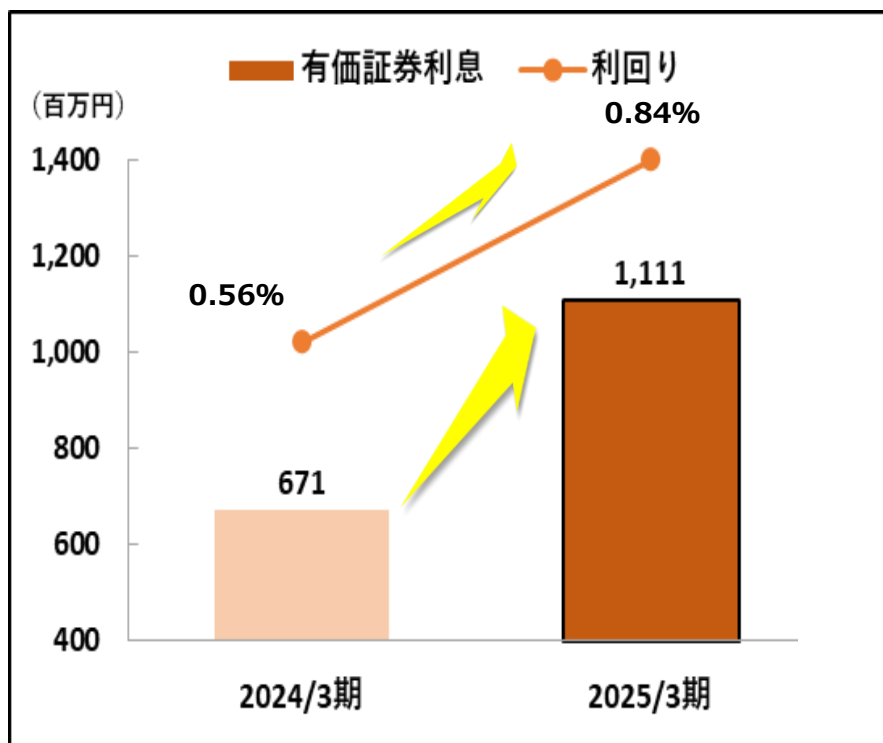


5. 有価証券の状況

➤ 国内債への投資拡大とポートフォリオの入替により利回りが向上！ 今後は評価損の解消が課題に

- 2025/3期の有価証券利息配当金は1,111百万円となり、前期比440百万円増加した。
- 好調な預金獲得を背景に金利上昇基調にあった国内債への投資を拡大したほか、収益性の低い投資信託や国内債を積極的に売却し、売却資金をより収益性の高い国内債等に再投資したことで、有価証券全体の利回りが向上した。
- 日本銀行の政策金利引上げ等、外部環境の変化に伴う国内金利の更なる上昇により、国債中心に保有している国内債の評価損は前期比25億円拡大したが、国内債の評価損は基本的には時間経過とともに縮小※していくため、今後も引続きキャンペーン等による預金の獲得にあわせて国内債を時間分散で購入していき、収益性を一段と高めていく。また、そうして収益の積上げを図ると同時に、経営の最重要課題である「有価証券全体の評価損解消」を目指していく。

※債券は償還日になると額面（評価損益が0の状態）で資金が返ってくるため、償還日が近づくにつれ評価損益も0に近付いていく。そのため、国内債が現在評価損を抱えている状態であれば、基本的には時間経過とともに評価損は縮小していく。



6. 次世代バンキングシステムへの移行について

- 当行は本年7月に、SBI 地方創生バンキングシステム株式会社が提供する地域金融機関向けクラウドベースの勘定系システム「次世代バンキングシステム」への移行を予定している。当システムは、アマゾンウェブサービス(AWS)上で設計・構築され、システム構成がシンプルで新しいサービスの拡充や機能追加が容易となるなど、デジタルトランスフォーメーション(DX)と業務改革を実現しつつ、持続的に進化し続けることが可能なシステムとなっている。
- ペーパーレス、印鑑レスの実現により業務効率化や印刷コストの削減、店舗の省スペース化等が図れるほか、セルフキャッシャー(簡易入出金機)、タブレットの導入により、お客さまもスムーズな窓口手続きが可能となる。また、移行後はしまぎんアプリとコンビニATMが24時間利用可能となり、お客さまの利便性も向上する。

セルフキャッシャー
の実物

タブレットの操作
画面のイメージ



しまぎんアプリとコンビニATM
が24時間利用可能に！



※セブン銀行ホームページより